

月刊

インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

財団法人 日印協会 (日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 106 年)



S.M.クリシュナ外務大臣が麻生総理大臣を表敬訪問 7月3日

写真提供: 佐伯健三氏

目次

- 1. 決算 評議員会・理事会 報告 P. 3
- 2. 開発援助の先駆的 NGO オイスカ P. 5
- 3. インドニュース P. 7
- 4. イベント紹介 P.11
- 5. 新刊書紹介 P.13
- 6. 日印貿易概況 P.14
- 7. 掲示板 P.15

1. 平成20年度決算 評議員会・理事会 報告

去る6月16日(火)及び18日(木)、財団法人日印協会の平成20年度事業活動と財務の内容の最終報告書を審議する評議員会と理事会が、それぞれ開催されました。16日の評議員会で議案を審議し、承認されたことを受け、18日に理事会を、東京赤坂の(財)日本国際フォーラム会議室で開催、森会長、坂根副会長以下、多数の理事が出席されました。平林理事長より、下記の議案を説明し、熱心な討議の結果、すべて議案は原案通り承認されました。議決事項は次のとおりです。



<決算理事会にて 中央 平林博理事長 森喜朗会長>

第1号議案 平成20年度事業報告

20年度中に実施した事業活動を記載した、『平成20年度事業報告書』に沿って審議されました。世界的な景気の大幅後退の影響もあり、数社の法人会員より休会・退会の申し出もありましたが、多くの会員皆様のご支援を得て、ホームページの刷新、『インド季報』に代わる新企画『現代インド・フォーラム』を立ち上げることが出来ました。100年近い歴史のある協会機関紙『月刊インド』も、予定通り年間10回発行しました。特筆すべき活動としては、昨年10月、マンモハン・シン首相来日の機会に、日印友好議員連盟との共催で、歓迎午餐レセプションを憲政記念館で開催しました。多くの日印関係者に参加頂き、日印友好・親善と交流の強化と拡大に貢献することが出来ました。恒例の渋谷の代々木公園での「ナマステ・インディア2008」では、連続講演会を開催、また1月には堂道秀明駐印大使の講演会、さらに、チェンナイ経済ミッションの歓迎昼食会(10月)など、多くのインド関係の催しを行い、また多くの文化交流行事への支援を行いました。

第2号議案 平成20年度決算報告

協会の事業活動に伴う、財務関係の報告です。収支計算書は次ページに掲載致しましたが、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の一連の報告書を、平林理事長から説明し、審議の結果満場一致で原案通り承認されました。

第3号議案 理事の辞任 及び 第4号議案 新理事の選出

高下悦仁郎理事の辞任 並びに梅葉芳弘・中村維夫両氏の新理事選出が承認されました。

第5号議案 会計処理規程の制定

従来、当協会の経理は、税理士の指導を受け、監事により適正に処理されていることを確認してきましたが、あらためて会計処理規定を制定、本理事会において承認されました。

第6号議案 新公益法人のための、最初の評議員選任規則の制定

当協会は、来年年央を目処に、新公益法人法に基づく“公益財団法人”に移行することを検討しています。その際、最初の評議員の選任のための規則が必要となりますが、その規則が原案通り承認されました。(この規則はその後、外務大臣より認可が下りました)

終了に当たり、森議長より、全ての議案が活発な質疑の結果、原案通り承認されたことに対して謝意表明があり、続いて閉会を宣言し、全議事を終了しました。

尚、決算理事会の資料は全て、当協会事務所内で常時閲覧いただけます。

平成20年度収支計算書

財団法人 日印協会
(単位:円)

科 目	一般会計	出版事業会計	合 計
事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入			
維持会員会費	10,700,000		10,700,000
法人会員会費	6,960,000		6,960,000
個人会員会費	1,644,000		1,644,000
寄付金収入	960,000		960,000
講演等事業収入	244,843		244,843
親善・交流等事業収入	569,076		569,076
月刊インド発行事業収入	142,978		142,978
広報事業収入	0		0
預金利息	82,699		82,699
外務省書籍販売収入		544,480	544,480
書籍販売収入		44,105	44,105
事業活動収入計	21,303,596	588,585	21,892,181
2. 事業活動支出			
事業費支出			
講演等事業費	1,291,822		1,291,822
親善・交流等事業費	2,985,122		2,985,122
月刊インド発行事業費	3,120,482		3,120,482
広報事業費	1,279,060		1,279,060
給料手当	6,839,658		6,839,658
借室料費	2,214,576		2,214,576
外務省書籍販売費用		661,518	661,518
書籍販売費用	0	652,292	652,292
事業費支出計	17,730,720	1,313,810	19,044,530
管理費支出			
給料手当	1,701,261		1,701,261
借室料費	553,644		553,644
通信費	210,886		210,886
水道光熱費	295,725		295,725
交通費	5,460		5,460
会議費	95,575		95,575
消耗品費	86,871		86,871
事務機器借料	346,500		346,500
租税公課	70,000		70,000
雑費	592,065		592,065
管理費支出計	3,957,987	0	3,957,987
事業活動支出計	21,688,707	1,313,810	23,002,517
事業活動収支差額	385,111	725,225	1,110,336
投資活動収支の部			
1. 投資活動収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
固定資産取得支出	277,780	0	277,780
投資活動支出計	277,780	0	277,780
投資活動収支差額	277,780	0	277,780
財務活動収支の部			
1. 財務活動収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	662,891	725,225	1,388,116
* 前期繰越収支差額			25,387,041
次期繰越収支差額			23,998,925

* 旧八重洲事務所移転に伴う補償金残

2. 開発援助の先駆的NGOオイスカ ~インドからの報告~

財団法人オイスカからの寄稿は、今回で最終回となります。「オイスカ?」と思われた方にも、4回の連載寄稿を読み、活動理念や内容をご理解して頂けたのではないのでしょうか。

インドとの交流や援助活動には様々な形があり、多くの団体が関わっています。どのような活動がなされているのか、自分の理念と合った参加の仕方を考えるうえで、参考にして頂きたいと思います。今後も、インドで活動している団体や個人の方を紹介していく予定です。

インド、心の聖地を訪ねて

NPO 法人国際自然大学校 事業主任
元財団法人オイスカ 緑化事業専門調整員
鈴木 宏紀

2006年、財団法人オイスカの職員だった私はインド・デリー周辺の緑化事業の推進のため専門調整員としてインドでの任務に就くことになりました。もともと私の担当地域は東南アジアが中心でしたが、学校植林や子ども達への環境教育を推進する国際プロジェクト「子供の森」計画が北インド(デリー周辺)で本格化したのを機に、1年の半分以上各国の現場を飛び回っていた私に白羽の矢が立ったのです。



<環境教育の様子>

私の活動地域の一つであったハリヤナ州グルガオンは、ボロボロの家屋が立ち並ぶスラムのすぐ脇に高層マンションが立ち並ぶという、経済発展に沸き立つインドを象徴するような景色が印象的な地域でした。ここで「子供の森」計画を開始するに当たり、全体的に学校側の緑化・環境教育活動に対する意識が高いというのが初めの印象でした。行く先々で学校側の熱意や活動に対する期待の高さを感じさせられました。特に村落部では外部との接触が限られていて、こういった活動に対する支援を受けられる機会が少ないことも理由としてありました。この活動への参加以前から植林を

実施している学校や、啓発活動終了後に自ら絵画コンクールやリサイクル工芸品の作成を実施するといった非常に意識の高い学校もありました。そういった学校の活動をモデル校として他校に紹介することで、良い意味での競争意識を刺激して全体的なレベルアップにも繋がりました。また現場スタッフ等を集めて定期的にミーティングを開き、そこでスライドショーや資料を用いて他の国での活動事例の紹介や、森林関係基礎知識の説明など相互理解に努めました。彼らの意識は予想以上に高く、ゴミ問題や水不足といったインドにおける緊急課題を重視し、もっと伝統文化に関連させた活動を取り上げるべきという意見が多く出されました。これまでの自分の経験では、他の国でこのようなプロジェクトを実施しても同様の成果を得ることはかなり難しかったので、インドの教育水準および教育に対する意識の高さを改めて感じる事ができました。

学生時代にバックパックを背負って貧乏旅行で訪れて以来、インドは私にとって心の聖地でした。目を閉じれば、悠々と流れるガンガーの水面や、人やリキシャが行き交う迷路のような裏路地が思い起こされる...、そんな場所でした。しかし私のインド観は大きく変化することになりました。

滞在期間中、私はデリーにあるオイスカ北インド支部会長のラビンダー K. ジャイトリ氏(4月号掲載)の自宅兼オフィスに住まわせて頂きました。夫人とともに40年以上も日本との関りを持つジャイトリ氏は日本語も流暢で、日本人以上に日本人らしい一面を持つ、義理人情にあふれた人物でした。ジャイトリ氏と夫人、高校生の息子にお手伝いさん、そんな家庭での生活を通じて、自分の中で聖地化していたインドにも、日本と同じような生活が存在するという当たり前のことを実感させられました。ちなみに、ジャイトリ家の食事は日本人好みの薄味で、スパイシーで濃厚に味付けされたレストランの料理よりはるかにおいしかったことも、インド生活を楽しめた一因でした。

そして忘れられないのが、オイスカ北インド支部事務局長のリトゥ・プラサッド女史の存在でした。彼女とはカウンターパート(相棒)として、期間中ずっと活動をともにしました。デリー郊外の学校での環境教育活動に出向くときや、州政府の担当官や教師との打合わせの際には、ヒンドゥー語はもちろん英語も満足に話せない私の通訳として、言わんとすることを十二分に汲み取ってくれる頭の良い女性でした。一方で、良家の出身で女性運動にも携わった経験を持つ彼女のプライドは相応に高く、意見がぶつかることは一度や二度ではありませんでした。それでも、お互いの活動に対する志を認め合っていたため、最終的に決裂することはなく、彼女との民族や性別を超えた仲間意識はとても心地良いものでした。

デリーに拠点を置くオイスカ北インド支部のメンバーは比較的中～上流階級に属する人が多いですが、ボランティア活動や環境保全意識が高い上、インド人としての誇りを持っています。そういう人たちとお付き合いを通じて、ブランドショップが並ぶショッピングモールやレストラン、六本木顔負けのお洒落なカフェバーなど、貧乏旅行時代には見ることでできなかったインドの一面を見ることができました。一方で、悠々と歩く野良牛やヒンドゥー寺院での祭礼、マーケットの喧騒などイメージと変わらぬインドの姿も存在していました。

学生時代から憧れの存在であったインドの地で、そこに暮らす人々と生活をともにし、志を共有する仲間と任務を成し遂げたことはいつまでも忘れ得ぬ経験であり、私が国際協力の世界から一度離れ、日本での活動を選択する大きなきっかけともなりました。私も彼らのように自分の国で起きている問題に目を向け、行動し続けることで、いつかまた本当の同志として再会し、共に協力し合える日が来ると信じています。

<鈴木 宏紀(すずき・ひろき)氏 略歴>

愛知県出身。

青年海外協力隊としてタイで2年間の植林活動に従事した後、JICA 専門員を経て財団法人オイスカへ。緑化事業専門調整員としてアジア諸国における、「子供の森」計画の推進に携わる。

現在は埼玉県にある青少年野外教育施設の事業主任として、日本の子ども達への自然体験活動の普及に取り組んでいる。



<教師対象セミナーにて、スタッフや協力校の教師達と>

3. インドニュース 6月

内政

6月3日

- インドの下院議長に女性のミーラ・クマール議員が就任。女性の下院議長就任はインドで初めて。なお、クマール議長は最下層カースト(ダリト、いわゆる不可触民階級)の出身。外交官の経歴を持ち、1985年に下院議員初当選した後、これまでに下院議員を4期務めている。

6月4日

- パティル大統領(注: 大統領も女性)が国会の上下両院合同会議で演説を行い、今後5年間における政策目標を「包括的成長」、「平等な発展」、「世俗的(注: 政教分離)かつ多様なインド」という3つのキーワードで表すとともに、優先的に取り組む10項目の優先分野及び当面の具体的取組を明示した「100日プラン」を発表した。

(10項目の優先分野:

宗派間の調和、 農業、製造業、サービス業における更なる成長、 雇用、教育、保健等の分野における既存プロジェクトの実現、 女性、児童、指定カースト等の福祉、 行政(ガバナンス)改革、 インフラ整備、 財政管理、 エネルギー安全保障及び環境保護、 国際社会との建設的な関わり、 企業文化、イノベーションの促進)

6月9日

- シン首相が議会で答弁演説を行い、パティル大統領演説で示された各種施策に取り組む決意を示すとともに、インド経済は8~9%の成長が可能であるとの見通しを示した。

6月15日

- 西ベンガル州ラルガル地区でマオイスト(別名: ナクサライト)が共産党幹部の自宅や警察署等を襲撃。同地区では昨年未頃からマオイストの襲撃事件が相次いでおり、事態を重くみた中央政府は18日に中央の治安部隊を投入し、マオイストの掃討作戦を開始。

メモ:

マオイストは、土地なし農民や下位カースト層の権利擁護を標榜する毛沢東主義極左過激派。西ベンガル州、オリッサ州、ジャールカンド州などのインド東部地区において治安組織や政治家、地主層へのテロ活動を行っている。なお、マオイスト活動はもともと土地なし農民の地主への抵抗活動として始まったものであり、地元住民の間にはマオイスト支持者が少なくない。

6月25日

- 雨期の到来が遅れていることを受け、デリー州政府は、本来7月1日に夏休み明けを迎える学校の再開時期を1週間延期すると発表。本年インドは全般的に雨期の到来が遅れており、水不足への懸念が強まっている。また、インドの農業生産は雨期の降雨量に大きく左右されるため、農作物の不作による物価高騰も懸念されている。

． 経済

5月29日

- インド政府は2008年度の経済成長率が6.7%であったと発表。インドは、2005年度以降3年連続で9%以上の成長を続けていたが、2008年度は、年度前半に食料・原油価格高騰の影響を受けたほか、年度後半には世界経済減速の煽りを受け、成長が伸び悩んだ。

5月30日

- 小売業で世界最大の販売規模を誇る米国のウォルマートがインド北部アムリトサル(パンジャブ州)にインド第1号店を開店。インドでは長らく卸売業への外資参入が規制されていたが、2006年から規制が解除されており、ウォルマート以外にも欧米系の流通企業がインドへの参入に関心を示している。

6月1日

- インド電気通信規制庁(Telecom Regulatory Authority of India)は、インド国内の携帯電話加入数が4月末現在で4億件を超えたと発表。

6月4日

- インドの株価指数 SENSEX の終値が15,008.68ポイントを記録。終値が15,000ポイントを超えたのは昨年9月以来。SENSEX は、世界経済の減速やムンバイ・テロ事件の影響などを受け、3月9日に今年の最安値である8,160ポイントをつけたが、その後3ヶ月間で約2倍に急騰している。

6月6日

- インド各紙は、リライアンス・インダストリーズが進めていたムンバイでの経済特区建設計画が中止に追い込まれたと報じた。計画では10,000ヘクタールを取得する予定であったが、約1,500ヘクタールしか取得できなかったことが原因としている。

6月8日

- インド自動車製造者協会(SIAM)は、2009年5月期の国内自動車製造数が前年同月比で6.53%増加したものの、国内乗用車販売数は0.79%減少したと発表。乗用車販売数は本年1月以降、月毎にプラスとマイナスを繰り返している(1月: -6.88%、2月: +15.02%、3月: -1.15%、4月: +4.36%、5月: -0.79%)。

． 外交

6月1日

- インド政府は、パキスタン政府との間でインダス川上流域の水資源問題に関する協議を実施。

メモ：

印パ関係は、1998年の両国による核実験から2001年のインド国会襲撃事件(インドの国会議事堂をテロリストが襲撃し、インド治安部隊等14名が犠牲になった事件)等を経て緊張が高まったが、2003年頃から関係改善の気運が高まり、2004年から信頼醸成や関係改善のための「複合的対話」が両国の政府間で開始された。複合的対話プロセスでは、領土問題、テロ・麻薬対策、通商関係、水利問題、人の交流等が取り上げられている。昨年11月のムンバイ・テロ事件後、印パ間の対話は全般的に停滞している。

6月15日

- シャルマ商工大臣が訪米。ワシントンで開催された「米印ビジネス評議会」の会合に出席したほか、米国通商代表部(USTR)のカーク大使と会談。

6月16日

- ロシア・エカテリンブルグで開催された第1回 BRICs 首脳会合にシン首相が出席。シン首相は同時に開催された上海協力機構首脳会合にも出席したほか、中国の胡錦涛国家主席及びロシアのメドベージェフ大統領と個別に首脳会談を行った。

メモ：

2003年10月に米国のゴールドマン・サックスがいわゆる「BRICs」レポートを発表し、ブラジル、ロシア、インド、中国の台頭を予想。その後4か国は、2006年9月に第1回閣僚会合を開催したのに続き、2007年及び2008年にも閣僚会合を開催した。近年インドは、BRICsの枠組み以外にも、「中印露」3か国の枠組みやIBSA(インド、ブラジル、南アフリカ)の枠組みにも積極的に参加している。なお、インドは、上海協力機構の正式メンバーではなくオブザーバー参加の資格であり、上海協力機構の従来首脳会合にはインドからは閣僚が参加していたが、今回はシン首相自身が参加した。

- 上海協力機構首脳会合に出席していたシン首相とザルダリ大統領が会談。印パ間の首脳会談は2008年9月(国連総会に際して実施)以来であり、ムンバイ・テロ事件以降初めて。会談の冒頭、シン首相はテロ組織の取り締まりを強く求めた。両首脳は外務次官協議の実施について合意した。

6月18日

- クリシュナ外相が初の外遊先としてブータンを訪問。

6月23日

- 韓国の柳明桓外交通商部長官が訪印。経済関係を始めとする二国間問題のほか、北朝鮮情勢、アフガニスタン情勢等について意見交換を行った。

6月26日

- イタリアで開催された G8 外相会合に際してクリシュナ外相がクレーシ・パキスタン外相と会談。テロ問題を含む二国間の懸案事項について協議を行った。
- 米国のジョーンズ国家安全保障担当補佐官が訪印し、ナラヤナン国家安全保障顧問と会談。二国間関係のほか、アフガニスタン情勢、パキスタン情勢について意見交換を行った。

日印関係

6月2日

- 住商情報システム株式会社は、インドの IVTL Infoview Technologies Private Limited 社(日本企業とのビジネスに特化したインドの IT 企業)との間で、ASEAN 地域およびインドにおける ERP(Enterprise Resource Planning: 企業資源計画)導入サービス支援や IT サービス提供に関する業務提携に合意したと発表。

6月10日

- ホンダが小型車「ジャズ(日本名: フィット)」をインドで発売開始。

6月29日

- インド外務省は、クリシュナ外相が7月3日~4日に訪日すると発表。

今月の注目点「第2次マンモハン・シン政権のスタート」

5月22日にマンモハン・シン首相が就任宣誓を行った。総選挙で大勝利を収めた勢いに乗って、満を持して第2次マンモハン・シン政権がスタートした。第2次シン政権の政策方針は6月4日のパティル大統領演説の中で示されている。この演説は、「包括的成長」、「平等な発展」、「世俗的かつ多様なインド」という3つの言葉をキーワードとし、インフラ整備を通じて経済成長を達成することを目標としつつ、同時に、農村、貧困層、女性、児童といった社会的弱者層に手厚く支援を差し伸べる内容となっている。内政や経済政策における基本方針は第1次シン政権と同じであるが、農村開発や社会的弱者対策に一層積極的な手当がなされると見込まれる。外交政策においても基本的な方向性は変わらず、多極主義の追求という従来の方針が継続される見込み。印パ関係について、インド政府は昨年11月のムンバイ・テロ事件を受け、まずはパキスタン政府によるテロ対策が重要という立場を貫いており、短期的な関係改善は望めないが、対話の窓は閉ざされておらず、様々なレベルでの接触を通じて、関係改善の道が模索されていくことになる。

「インドニュース」は外務省の協力を得てお届けしております。担当して頂いている青島尚重氏は、6月から一等書記官として在インド日本大使館へ赴任され、現地でも情報を得ての執筆となっています。

<青島 尚重 (あおしま・なおしげ) 一等書記官 略歴>

- 1993年 外務省入省(ヒンディー語専門職)
- 1994年 ウッタル・プラデシュ州 アラハバード市にて研修
- 1996年 在インド大使館勤務
- 1998年 在アイルランド大使館勤務
- 2001年 本省在外公館課、安全保障政策課
- 2005年 南西アジア課インド班
- 2009年 在インド大使館勤務

4. イベント紹介

新装なったインド大使館落成式が行われました

7月4日(土)訪日したクリシュナ外務大臣を迎え、シン駐日インド大使主催で、5月に完成した日インド大使館のお披露目の式典が行われました。当協会の森喜朗会長は地方遊説のためやむをえず欠席しましたが、平林博理事長が「新しい大使館が発展する日印交流の拠点となることを期待します」との会長の祝辞を披露しました。

大使館は、皇居の千鳥が淵に面した一等地にあります。全面的改装により、これまでの「地の利」に加えて、大きさも機能性も格段に改善されました。正面から見て左側部分に、文化・交流関係の施設を集め、交流のための充実した設備が整えられています。地下1階に展示室と会議場、1階にロビー、1階から2階にかけて講堂、2階にダンス教室と音楽教室、3階に図書館、4階にヨガ教室があり、大使館の日印交流事業や文化活動が一層活発になることが期待されます。



森会長の祝辞を代読する
平林理事長
写真提供:佐伯健三氏



クリシュナ外務大臣 平林理事長
シン大使 堂道大使
写真提供:佐伯健三氏



大使館全景(建築模型)

会員懇親会

7月8日(水)、午後6時から、インド料理レストラン“マハラジャ 丸の内店”で、財団法人日印協会の会員懇親会が盛大に開かれました。

参加して下さった皆様、楽しんで頂けましたでしょうか? ナマステ・インディアや、セミナー、講演会など、各種のイベントで顔を合わせながら親しくお話しする機会の限られていた会員同士が、親交を深める機会を設けたいという思いから、懇親会を企画しました。

当日は、朝からはっきりしない天気、出足が心配されましたが、“案ずるより産むが易し”の言葉どおり、多数の老若男女の会員が参集して下さり、事務局関係者全員、ホッと胸を撫で下ろしたことでした。お集まり下さった方々に改めて厚く御礼申し上げる次第です。

それにしても、さすがインド仕込みのツワモノ達は、美味なるインドカレーに舌鼓を打ちつつ、食べてよし、飲んでよし、しゃべってよしで、所狭しとばかり時間の経つのも忘れて、賑やかに集い、所期の目的である「相互理解の増進」を達成することができたと、事務局一同自賛しています。

森喜朗会長は、会員諸氏と親しくお話しする絶好なるチャンスであると、この懇親会を心待ちにしていたが、都議選候補者の応援のため出席できなかったのはいかにも残念でした。一方、理事長の平林は、インド出張から当日夕刻成田空港着、懇親会場に直行して挨拶し、会員の皆様と懇談することができました。懇親会の後半は、くじ引きで腹ごなし、大いに盛り上がりました。懇親会の開催にご協力頂いた“マハラジャ”の河谷恵美子(コタリ)さんはじめ、賞品を提供して下さった多くの方々に心から御礼申し上げます。次にお目にかかれる機会まで、ごきげんよう!



挨拶をする平林理事長

料理を味わう会員の方々



インドを語る集い <様々なインド> 第21回開催のお知らせ

7月31日金曜日、協会事務所にて<様々なインド>『インドでマダム、暮らしてみたニューデリー』を、講師に小林信子さんを迎えて開催致します。

日 時: 7月31日 金曜日 18:00~19:30

場 所: 日印協会事務所 東京都中央区日本橋茅場町 2-1-14 スズコービル 2階

参 加 費: 協会会員無料 (非会員 500円)

参加申込用紙を同封致しましたので、皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

インドを語る集い <様々なインド> 第22回開催のお知らせ

8月21日金曜日、協会事務所にて<様々なインド>『ヒンドゥー文化とイスラム文化の美しい融合~カタックダンスのリズムに乗って~』を開催致します。

講 師: 佐藤 雅子さん インド舞踊家 (日印協会協会会員)

日 時: 8月21日 金曜日 18:00~19:30

場 所: 日印協会事務所 東京都中央区日本橋茅場町 2-1-14 スズコービル 2階

参 加 費: 協会会員無料 (非会員 500円)

参加申込用紙を同封致しましたので、皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

インド舞踊劇のお知らせ

9月19日土曜日、インド舞踊劇“チットラレッカー”が開催されます。

日 時: 9月19日(土) 17:00開場/18:30開演

場 所: なかのZERO小ホール 東京都中野区中野 2-9-7

問 合 先: ケララ企画 TEL 042-574-8217 / 080-3013-0924 E-mail mohini@nifty.com

ナマステ・インドのお知らせ

“第17回 ナマステ・インド 2009”の日程が決まりました。

日 時: 9月26日(土) 午前10:00~午後8:00

9月27日(日) 午前10:00~午後7:30

メイン会場: 東京都代々木公園イベント広場・野外ステージ

第2会場: たばこと塩の博物館 東京都渋谷区神南 1-16-8

26日(土) 13:00~14:30 / 15:00~16:30

27日(日) 13:00~14:30 / 15:00~16:30

第2開場では、恒例の協会とたばこと塩の博物館共催による講演会を行います。

講演内容等、決まり次第会員の皆様にご案内致します。皆様に喜んで頂ける内容になるよう、鋭意交渉中です。

☞ 『現代インド・フォーラム』第2号 発刊 - 今すぐクリック -



好評の第1号に続き、第2号がホームページで公開中です。

“特集:インド総選挙 「世界最大の民主主義」の行方”として政治・外交・経済・安全保障の各分野の第1人者の方々が執筆されています。

かねてよりお知らせしておりましたように、第2号発刊に伴い第1号の閲覧はユーザー名・パスワードが必要となります。協会にE-mailアドレスを登録されている方には、7月1日に第2号をUPすると同時にユーザー名・パスワードをE-mailでお知らせしております。まだ登録されていない方は、協会事務局までお知らせ下さい。メール送信後、不達で戻ってきた方が、何名かいらっしゃいます。アドレスを登録しているのにメールが届かなかった方、アドレスを変更された方は、ご連絡下さい。

追悼会

去る6月24日(水)、杉並区蓮光寺の御住職 故望月日康(潤聲院日康上人)様の追悼会がヒルトン東京(東京都新宿区)で、故住職のご遺弟・ご親族等関係者出席の下、日蓮宗の宗旨に則って盛大に行われました。大勢の僧侶に檀徒をまじえて、多数の参加者が故人を偲びました。

蓮光寺は、昭和20年(1945年)8月18日、台湾で飛行機墜落事故により客死したインド独立の志士「スバス・チャンドラ・ボース」のご遺骨を、故住職のお父様である望月教栄住職の代から預かっているお寺です。訪日されたネルー首相、インディラ・ガンディー首相など、インドの要人も蓮光寺を訪れています。

ボースのご遺骨を守り続けてこられた故住職に、合掌。



<挨拶をされる駐日インド大使館
プラシャント・ピセ 参事官>

5. 新刊書紹介

§ 『タゴールの歌 自然と人生をみつめなおす歌詩60選』

(アジアからの贈りものシリーズ) CD付

著者: ラビンドラナート・タゴール

編訳: 神戸 朋子

発行: 株式会社 段々社

定価: 2,000円+税

ISBN 978-4-434-11690-2 C0398



本書は、2千余曲が収められている『ギトピタン(歌詩集)』のなかから60曲を選んで編訳したものです。全ての歌にタゴールの崇高さを感じずにはられません。同時に、訳者の「今こそタゴールの歌に込められた普遍の真理が、時空を超えて遍く及ぶことを祈ってやまない。(訳者あとがきより)」気持ちが込められた、美しい訳詩に引き込まれます。

6. 日印貿易概況 (2009年第1四半期-全年との比較)

(単位：100万円)

輸 出 総 額 (日本 インド)	2008年1～3月 第1・四半期	2009年1～3月 第1・四半期	輸 入 総 額 (インド 日本)	2008年1～3月 第1・四半期	2009年1～3月 第1・四半期
	201,707	124,613		150,668	82,804
食 料 品	54	71	食 料 品	22,127	16,470
原 料 品	2,241	1,214	魚介類	7,032	4,611
鉱物性燃料	16,529	5,271	(えび)	4,236	3,392
化学製品	18,661	13,894	肉類	-	0
有機化合物	6,404	4,621	穀物類	36	123
医薬品	645	282	野菜	44	28
プラスチック	5,257	3,965	果実	872	919
原料別製品	36,275	24,767	原 料 品	31,498	22,713
鉄鋼	20,886	13,580	木材	39	26
非鉄金属	1,221	1,299	非鉄金属鉱	3,030	2,295
金属製品	8,246	5,416	鉄鉱石	19,332	13,152
織物用糸・繊維製品	1,774	1,460	大豆	-	0
非金属鉱物製品	1,518	1,129	鉱物性燃料	51,244	5,790
ゴム製品	1,960	1,562	原油及び粗油	-	0
紙類・紙製品	650	320	石油製品	51,244	5,520
一般機械	65,330	27,924	(ナフサ等)	51,244	5,518
原動機	9,541	4,099	石炭	-	147
電算機類(含周辺機器)	749	267	化学製品	8,811	7,094
電算機類の部分品	354	204	有機化合物	4,648	4,117
金属加工機械	13,903	7,524	医薬品	502	439
ポンプ・遠心分離器	6,098	4,883	原料別製品	17,752	14,005
建設用・鉱山用機械	6,354	3,110	鉄鋼原料製品	1,868	2,292
荷役機械	3,388	3,476	非鉄金属	798	70
加熱用・冷却用機器	2,218	2,077	金属製品	552	386
繊維機械	6,944	1,542	織物用糸・繊維製品	4,825	3,630
ベアリング	1,020	739	ダイヤモンド加工品	8,614	6,737
電気機器	31,279	21,981	貴石及び半貴石加工品	168	218
半導体等電子部品	7,079	4,115	その他非金属鉱物製品	508	346
(I C)	4,680	2,787	木製品等(除家具)	31	21
映像機器	1,157	346	一般機械	4,213	3,112
(映像記録・再生機器)	1,058	232	原動機	504	399
(テレビ受像機)	99	114	電算機類(含周辺機器)	76	121
音響機器	9	14	電算機類の部分品	639	571
音響・映像機器の部分品	69	59	電気機器	4,288	2,210
重電機器	2,921	2,578	半導体等電子部品	91	56
通信機	2,059	3,294	(I C)	69	36
電気計測機器	3,840	3,278	音響映像機器(含部品)	38	10
電気回路等の機器	4,551	3,169	(映像記録・再生機器)	2	0
電池	159	77	重電機器	1,601	823
輸送用機器	17,055	9,043	通信機	32	34
自動車	4,837	858	電気計測機器	149	65
(乗用車)	4,726	808	輸送用機器	1,173	651
(バス・トラック)	85	25	自動車	116	104
自動車の部分品	11,598	6,800	自動車の部分品	1,002	524
二輪自動車	96	19	航空機類	2	0
船舶	-	0	そ の 他	9,560	10,756
そ の 他	14,281	10,908	科学光学機器	104	78
科学光学機器	3,972	3,326	衣類・同付属品	6,093	6,813
写真用・映画用材料	2,609	1,624	家具	65	79
記録媒体(含記録済)	908	781	バッグ類	631	483

0は表示単位に満たないもの - はデータの無いもの

資料： 日本関税協会『外国貿易概況』『日本貿易月表』

7. 掲示板

<次回の『月刊インド』の発送日>

今号は7月・8月合併号ですので、次回の発送は9月11日(金)を予定しております。

インドに関係のある催事のチラシなどを会報に封入しませんか？ 作業する方は、会員でなくても構いません。話しながらの和やかな雰囲気での作業です。催事の期日をお考え合わせのうえ、詳細は事務局までお問合せ下さい。

<皆様のご意見歓迎致します！>

『月刊インド』、『現代インド・フォーラム』やホームページなど、内容を充実していくために、会員の皆様のご意見・ご感想を是非お寄せ下さい。

ホームページには、皆様の提言を投稿して頂けるコラムがございます。日印関係を更に良くするためにお知恵をお貸し下さい。皆様からのご投稿による“談論風発”を期待しております。

<事務局夏期休暇のお知らせ>

8月10日(月)～8月18日(火)まで、夏季休暇とさせていただきます。期間中の事務局へのお問合せ等はE-mailにてお願い致します。休暇終了後回答致します。

<編集後記>

今月は『現代インド・フォーラム』7月号発刊、会員懇親会開催、『月刊インド』7-8月合併号発刊、<様々なインド>開催と、×切とイベントが交互にやってくる月となり、慌しくしています。8月の休暇でリフレッシュし、その後のイベントにむけて更に気合を入れていきます。

ジメジメの梅雨と暑い夏には、インドのカレーパワーが1番！



日印親善のために会員の輪を広げましょう



法人会員・個人会員の入会をお待ちしております。

1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された財団法人日印協会は、これまで日印の相互理解と両国の親善増進のために、日々地道な努力を続けてまいりました。ここ数年来の日印の良好な関係がより一層深まるためにも、会員の獲得は重要な課題であると考えています。インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。

ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。

日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

年会費：個人	6,000 円/口	入会金：個人	2,000 円
学生	3,000 円/口	学生	1,000 円
一般法人会員	100,000 円/口	法人	5,000 円
維持法人会員	150,000 円/口	(一般法人、維持法人会員共に)	

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol.106 No.6 (2009年7月17日発行) 発行者 平林 博 編集者 青山 鑛一
発行所 財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

